車のお手入れ

メインテナンス上の諸注意

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

お客様ご自身でメインテナンスされる場合につきましても、細心の注意を払っていただくようお願い致します。このような注意を払ってはじめて信頼できる走行が保証できます。

不適切な整備を行いますと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

パワー・テスト

シャシ・ダイナモ・メータによるパワー・テストはポルシェ社では承認されていません。

⚠ 警 告

メインテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

▷ バッテリや燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 整備は、屋外か、室内でも換気のよい状況で行ってください。

▷ 加熱しているエンジン部品の近くで作業をする場合は、火傷の危険性がありますので十分注意してください。

▷ エンジン・ルーム内の部品の整備をする前にエンジンを停止し、十分冷やしてください。

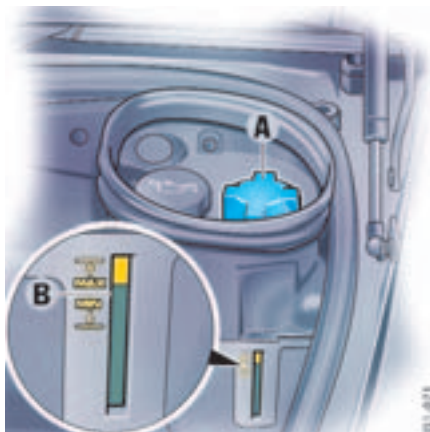
▷ エンジンをかけたまま作業しなければならない場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、シフト・レバーをニュートラルまたは **“P”** の位置にしてください。

▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）や装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部に絡まることのないように、特に注意してください。

▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していても、クーラントの温度に応じて作動し続けたり、作動し始めたりすることがあります。
ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにしていても怪我をする可能性がありますので十分注意して作業をしてください。

▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されている全てのケーブルとリード線に高電圧がかかっていますので、特に注意が必要になります。

▷ もし、車の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキを使用することは危険ですのでおやめください。

▷ エンジン・オイル、ウォッシャ液、ブレーキ液またはクーラントなどの液体は健康を害するので、取扱いの際は次のことに注意してください。
これらの液体はお子様の手の届かない所で保管してください。
廃棄する場合は、法規に従ってください。

A - リザーバ・タンク・キャップ
B - クーラント・レベル

クーラント・レベル

▷「メインテナンス上の諸注意」(168ページ)を参照してください。

クーリング・システムは工場でロング・ライフ・クーラントが充填されています。このクーラントは年間を通じた腐食防止と、−35℃までの凍結防止の働きをします。

▷ ポルシェ社指定の不凍液のみを使用してください。

クーラント・レベルの点検

注入口の付いたリザーバ・タンクがリア・トランク・ルームにあります。

▷ リザーバ・タンクの透明な部分から定期的にクーラント・レベルを点検してください。

エンジンが冷えていて、車が水平な場所にあるとき、クーラント・レベルが **"MIN"** と **"MAX"** マークの間を保つようにしてください。

クーラントの補充

⚠ 注 意

熱くなったクーラントで火傷をする恐れがあります。

▷ エンジンが熱いときにリザーバ・タンク・キャップを開かないでください。

クーラントがあふれてリア・トランク・ルーム周辺が損傷する恐れがあります。

▷ クーラントを補充するときは、こぼしてリア・トランク・ルームを汚さないように注意してください。

1. エンジンを停止し、冷えるのを待ちます。
   「クーリング・システム」(76ページ)を参照してください。
2. リザーバ・タンク・キャップを布で覆って、慎重に開き圧力を逃してください。その後、キャップを完全に取外します。
3. 同量の不凍液と水を混ぜ合わせ、それを **"MAX"** マークを超えないように注入します。

   クーラント内の不凍液と水の割合

   不凍液50%:水50%(−35℃までの凍結防止)

   不凍液60%:水40%(−50℃までの凍結防止)
4. キャップをしっかりと締め付けます。

緊急時に水だけを補充した場合は、ポルシェ正規販売店でクーラントの割合を修正してください。

クーラントの減り方が著しい場合は、クーリング・システムに漏れが発生しています。このような場合は、直ちにポルシェ正規販売店で修理してください。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ラジエータ・ファン

ラジエータとラジエータ・ファンは車両の前側にあります。

⚠ 注 意

車両の前側にあるラジエータ・ファンは、イグニッションがONのときは、作動していたり、不意に作動することがあります。

▷ ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、怪我をする危険性がありますので十分注意してください。

エンジン・オイル

ポルシェ車のエンジンはオイル添加剤を必要としません。

▷ エンジン・オイルはポルシェ社によってテストされ、認可されたもののみを使用してください。ポルシェ正規販売店に、お車のエンジンに適合するエンジン・オイルをお尋ねください。

エンジンに適合するエンジン・オイルであれば、互いに混ぜることができますが、銘柄によって組成が異なりますので、オイル交換の前後で注ぎ足す必要の生じた場合は、できるだけ同じオイルを使用してください。

定期的なオイル交換はメンテナンスの一部です。

▷ ほこりの多い場所を走行する場合は、頻繁にエンジン・オイルを交換してください。

エンジン・オイル・グレード

エンジン・オイルは潤滑油としてだけでなく、エンジン内部をきれいに保ち、燃焼によってエンジン内部に侵入するすすを中和し、腐食からエンジンを保護するという役目も果たしています。これらの機能を果たすために、専用に開発された添加剤が加えられています。

鉱物油は原油から直接つくられたものですが、これらのオイルをさらに精製（水素化分解オイル）、または様々な化学的工程をへて、完全に転化（合成オイル）することができます。これらのオイルは鉱物油に比べて、より効果的です。

ポルシェ社によって認可された合成エンジン・オイルのみを使用してください。

オール・シーズン・ライト・ランニング・エンジン・オイル

オール・シーズン・オイルは、低温度でも粘度が低く、温度安定性が非常に高い上に、その組成により高温度で蒸発しにくい特性があります。適切な温度範囲を考慮すれば、高性能要件に適合するオイルとしてオール・シーズン・オイルを使用することができます。「冬季および夏季」（171ページ）を参照してください。

これらのオイルは、低温度でも粘度が低いため、良好なライト・ランニング特性を持っており、オール・シーズン・ライト・ランニング・オイルとも呼ばれます。

ポルシェ社によって認可された省燃費エンジン・オイルのみを使用してください。

粘度

粘度（流動特性）は、SAE級によって表示されます。

低温粘度は、0Wや5Wのように数字と“W”（winterの“W”）とで表されます。5Wのオイルは、0Wのオイルに比べ粘度が高くなります。

その後に続く40や50のような数字は、高温粘度を表し、40のオイルの方が50のオイルに比べ粘度が低くなります。

マルチ・グレード・オイルは、2種類の粘度を持っています。例えば、SAE 0W-40、5W-40あるいは5W-50のようなオイルがあります。

例：

0W-40および5W-40のオイルは、高温度での粘度は同じですが、低温度では5Wのオイルの方が粘度が高くなります。5W-40および5W-50のオイルは、低温度での粘度は同じですが、高温度ではクラス40のオイルの方が粘度が低くなります。

冬季および夏季

－25℃以上：

SAE 0W-40、5W-40、5W-50のポルシェ社認可オイル

－25℃以下：

SAE 0W-40のポルシェ社認可オイル

ポルシェ社によって認可されたオイル

ポルシェ社認可オイル・リストに記載されているオイルは、ポルシェ正規販売店におたずねください。

エンジン・オイル・レベル

▷ 「メンテナンス上の諸注意」（168ページ）を参照してください。

▷ 定期的なオイル・レベル点検は、燃料給油時にオンボードコンピュータで点検してください。「オイル・レベルの表示および測定」（101ページ）を参照してください。

▷ エンジン・オイルの補充口は、リア・トランク・ルーム内にあります。

エンジン・オイルの補充

⚠ 警 告

エンジン・オイルがあふれてリア・トランク・ルームを汚す恐れがあります。

▷ エンジン・オイルを補充する時は、リア・トランク・ルームを汚さないように注意してください。

1. オンボードコンピュータにエンジン・オイルの補充量が表示されます。
2. オイル・フィラー・キャップを取外し、フィラー・エイドを引き抜きます。
3. 一度に最大0.5リットルずつ補充します。
4. オンボードコンピュータのオイル・レベルを再度確認します。
5. 必要に応じて、エンジン・オイルを追加補充します。
   上限マークまでの量以上のエンジン・オイルを補充しないでください。
6. フィラー・エイドをオイル・フィラー・キャップに押し付け、オイル・フィラー・キャップを慎重に閉めます。

ブレーキ液レベル

▷「メインテナンス上の諸注意」（168ページ）を参照してください。

▷ ポルシェ純正ブレーキ液またはポルシェ社の要求する性能、品質基準を満たしたブレーキ液を使用してください。

⚠ 警 告

ブレーキ液は有毒で、塗装や他の表面を傷付けます。

▷ ブレーキ液は、お子様の手の届かない場所に保管してください。

▷ ブレーキ液を補充するときは、トランク・ルーム内を汚さないように注意してください。

ブレーキ液レベルの点検

油圧ブレーキ操作システム用のフルード・リザーバ・タンクは、フロント・トランク・ルームの中にあります。

1. カバー・キャップ**A**を開いて、取外します。
2. 透明なリザーバ・タンク内のブレーキ液の液面をウィンドウ**B**から定期的に点検してください。
   液面は上限のマークと下限のマークの間にくるようにしてください。

走行中に、ブレーキ・パッドの摩耗により液面が若干低下することがありますが、これは正常な状態です。
液面の低下が著しい場合や下限のマークより下がった場合は、ブレーキ・システムに漏れが発生しています。

▷ その場合は、直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ系統の点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

ブレーキ液の交換

ブレーキ液は吸湿性があります。水分を含むと、沸点が下がり、操作状況によってはブレーキの性能に影響します。

整備手帳に指示された期間に従って、交換してください。

警告灯

ブレーキ液が許容範囲以下に減った場合は、インストルメント・クラスタの警告灯が点灯し、オンボード・コンピュータに警告メッセージが表示されます。

– ブレーキ回路が不具合を起こした場合、ブレーキ・ペダルの踏みしろが大きくなり、インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、オンボード・コンピュータに警告メッセージが表示されます。

走行中に警告灯が点滅した場合

▷ それ以上の走行を避け、安全な場所に停車してください。

▷ 最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

燃料

⚠ 警 告

燃料は可燃性が高く、有害な物質なので十分注意してください。

▷ 燃料系統の近くでは、喫煙したり火気を近付けたりしないでください。

▷ 皮膚や衣類が接触しないよう十分注意してください。

▷ 燃料の揮発ガスを吸い込まないようにしてください。

▷ 「エミッション・コントロール・システム」（176ページ）を参照してください。

▷ 「燃料計」（78ページ）を参照してください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります。
エンジンは**無鉛プレミアム・ガソリンで、オクタン価が98RON/88MON**のものを使用した場合に、最高の性能と燃費を達成するように設計されています。

オクタン価が95RON/85MONの無鉛プレミアム・ガソリンを使用した場合は、エンジンのノック制御システムが自動的にイグニッション・タイミングを調整します。

カバーの開き方

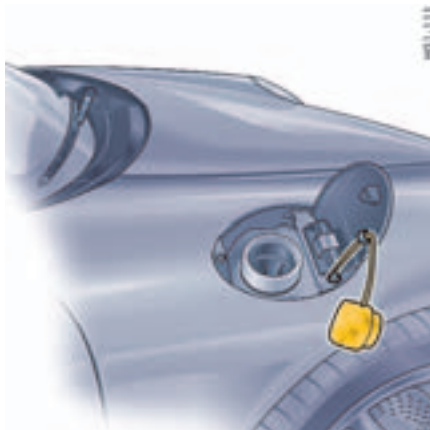
燃料給油口は右フロント・フェンダ部のカバー内にあります。

▷ 車のロックを解除して、カバーの前部分（**矢印**）を押してください。

カバーは他のロックと同じように、セントラル・ロッキングによってロックされます。

自動ロック解除システムが故障した場合は、

▷ 助手席側ドアを開きます。

▷ 右側ドア開口部にあるリング（**矢印**）を引いてください。

燃料の給油

タンク容量は約64リットルです。

1. エンジンを停止し、キーをイグニッション・スイッチから抜取ります。
2. タンク・キャップを取外し、燃料給油フラップ裏側に引っかけます。
   タンク・キャップを開けたときにシューという音が聞こえますが、これは正常な状態であり、タンク・システムの故障を示すものではありません。
3. ノズルは確実にフィラーの奥まで差込み、注入時はノズルを下に向けて給油してください。
4. フューエル・ホース・ノズルを正しく使用した場合、ノズルからの燃料の注入が停止したら、タンクは「満タン」です。これ以上注入すると、燃料が熱で膨張したときにあふれます。
5. ガソリン注入後は、タンク・キャップを確実に合わせ、しっかりと取付けられるまで回します。

タンク・キャップを紛失した場合は、必ず純正部品と交換してください。

知識：
エンジン・オイル量は給油時に自動で計測されます。

▷ 「給油中のオイル・レベル測定」（102ページ）を参照してください。

予備燃料タンク

⚠ 危 険

予備燃料タンクの損傷や燃料漏れによる火災や爆発の恐れがあります。また有毒ガスが健康に害を与えます。

▷ 予備燃料タンクを車両に積み込んだまま、長距離走行を行わないでください。

▷ 各法規に従ってください。

エミッション・コントロール・システム

O2センサ、エレクトロニック・コントロール・ユニットに加えて、三元触媒コンバータにより、エミッション・コントロール・システムの効果が大幅に向上しています。

エミッション・コントロール・システムの効率を維持するために、定期的に点検整備を受けてください。

無鉛ガソリン以外の燃料を使用しないでください。使用すると、触媒コンバータとO2センサが破損して、補修できない場合があります。

燃料タンク・ベンチレーション・システムは、燃料蒸発ガスがタンクから外気に漏れるのを防ぎます。

運転上のアドバイス

空燃比制御システムに故障が発生すると、エンジンがオーバーヒートしたり、触媒コンバータが損傷してしまうため必ず下記の注意をお守りください。

⚠ 警 告

エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

▷ エンジンが始動しない場合は、スターター・モーターを繰り返し作動させたり、長時間作動させないでください。

▷ 走行中にミスファイヤーが発生したとき（エンジンの回転が荒くなったり、出力低下、エミッション・コントロール・システム警告灯の点灯で判断できます）は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理をしてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

▷ 燃料残量警告灯が点灯したら、高速でコーナーを走行しないでください。

▷ 燃料タンクが完全に空になるまで走行しないでください。

▷ けん引または押しがけスタートはエンジンが冷えている場合のみ行ってください。

ティプトロニック車は、けん引または押しがけスタートができません。

高温の排気系に接触して発火する恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒートシールドやその周囲に、アンダーコーティングしたり防錆剤を塗布しないでください。エンジンが作動すると、保護剤が過熱、発火することがあります。

▷ 乾燥した草や落葉などの引火性の高い物がある場所では、駐車したりエンジンを始動させないでください。

ウォッシャ液

ウォッシャ液タンクは、フロント・トランク・ルーム内の左後方にあり、青色のネジ式キャップが付いています。

容量：

– ヘッドランプ・クリーニング・システムなし：約2.5リットル
– ヘッドランプ・クリーニング・システム付き：約6リットル

ウォッシャ液の補充

一般的に、水だけではウィンドウやヘッドランプはきれいになりません。季節に応じて凍結防止剤入りの冬用クリーナや、適切な夏用クリーナを適量添加してください。混合の割合はクリーナに付属の取扱説明書に従ってください。

▷ ポルシェ社が認可したウォッシャ液を使用してください。

1. 洗浄剤の容器に記載されている情報に注意してください。
2. ウォッシャ液タンクのキャップを取外します。（矢印）
3. ウォッシャ液を補充し、確実にキャップを閉めます。

警告メッセージ

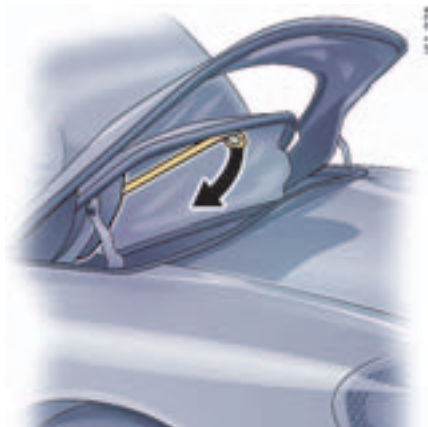
ウォッシャ液の残りが約0.5リットルになるとオンボードコンピュータに警告メッセージが表示されます。

▷ ウォッシャ液を補充してください。

エンジン・フードの開き方

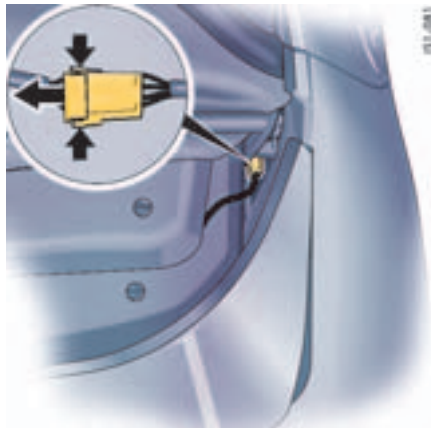
コンバーチブル・トップのサービス位置

1. コンバーチブル・トップをフロント・ウィンド・フレームから約60cm離す様に、開くか閉じるようにしてください。
   「コンバーチブル・トップ」（154ページ）を参照してください。
2. **コンバーチブル・トップが不意に作動することがないように、イグニッション・キーを抜いてください。**
3. 両側のテンション・ロープのアッパ・ボール・ヘッドを外します。
4. ファブリック・カバーを、2つのホルダから下方向に外します。

5. リヤ・ウィンドウの上部を押し下げ、コンバーチブル・トップの後部を前方に折り曲げます。

6. 固定ストラップのマジック・テープをはがします。

7. 固定ストラップをコンバーチブル・トップ・ガイドに取り付けます。

ラゲッジ・ネットの取外し

▷ ラゲッジ・ネット付きの車の場合、両側にあるホックを外します。

ラゲッジ・ポケットの取外し

▷ BOSEサウンド・システム装着車では、スピーカのコネクタを外します。

コネクタ両側の固定レバー（小さな矢印）を押しながら外してください。

コネクタはロールオーバー・バーの右側奥に固定されています。

▷ ラゲッジ・ポケットのターン・ロック**A**を開き、固定するまで外側に約1.5cm引出します。ラゲッジ・ポケットを後ろ側から取外します。

カーペット・カバーの取外し

▷ カーペット・カバーのターン・ロック**B**をゆるめ、カーペット・カバーを取外します。

ラゲッジ・ネット付きの車の場合、前側にターン・ロックが2個あります。さらに、前側にあるターン・ロックもゆるめます。

エンジン・フードの取外し

1. コンバーチブル・トップが不意に作動することがないように、イグニッション・キーを抜取ります。
2. アレン・キーを使用してエンジン・フードにある5個のキャッチをゆるめます。
3. エンジン・フードを取外します。

⚠ 警 告

空力抵抗が増すため走行に影響をおよぼす恐れがあります。また、排気ガスや燃料揮発ガスなどが室内に入り込み、致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ エンジン・フードを開いたままで走行しないでください。

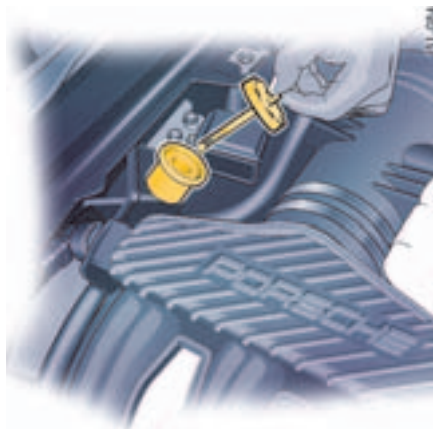
閉じ方

1. コンバーチブル・トップが不意に作動することがないように、イグニッション・キーを抜取ります。

⚠ 警 告

空力抵抗が増すため、走行に影響をおよぼす恐れがあります。また、排気ガスや燃料揮発ガスなどが室内に入り込み、致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ エンジン・フードが確実に閉じていること、ターン・ロックが確実に締められていることを確認してください。

2. エンジン・フードを乗せ、アレン・キーを使用して5ヶ所全てのキャッチを締めます。
3. カーペット・カバーを乗せ、カーペット・カバーのターン・ロックを締めます。
   ラゲッジ・ネット装着車：4ヶ所
   ラゲッジ・ネット非装着車：2ヶ所
4. ロールオーバー・バー下のラゲッジ・ポケットを後ろ側から押し、さらに下に押し付けてラゲッジ・ポケットのターン・ロックを締めます。
5. BOSEサウンド・システム装着車は、スピーカのコネクタを接続します。

パワー・ステアリング

⚠ 警 告

エンジンがかかっていない（けん引など）場合や、油圧操舵機構に異常がある場合は、操舵力はアシストされません。この場合、ステアリング操作に強い力が必要となり、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ けん引するときは、十分注意してください。

▷ 直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

知識：
ステアリングを一杯に切ったときに聞こえるノイズは、構造上の特性であり、ステアリング・システムの故障ではありません。

オイルの点検

▷ 「メインテナンス上の諸注意」（168ページ）を参照してください。

リザーバ・タンクはエンジン・ルームにあります。

▷ ポルシェ社純正またはポルシェ社の要求する性能、品質基準を満たしたパワー・ステアリング・オイルのみを使用してください。

点検はエンジンを停止して**冷間時**（約20℃）に行ってください。

1. エンジン・フードを開きます。
   「エンジン・フードの開き方」（178ページ）を参照してください。
2. リザーバ・キャップを取外します。
3. オイル・レベル・ゲージのオイルを拭取ります。キャップを取付け、もう一度取外します。オイル・レベルは“Cold”マークより下のシェードのかかった部分にあることを確認してください。
   必要に応じてオイルを補充してください。
4. リザーバ・キャップを注意して閉じます。

▷ オイルの減り方が著しい場合は、システム内に漏れが発生しています。

この場合は直ちにポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

エア・フィルタ

▷「メインテナンス上の諸注意」（168ページ）を参照してください。

エア・フィルタはエンジン・ルームの左側にあります。

定期的なフィルタ・エレメント交換はメンテナンスの一部です。

▷ ほこりの多い場所では、より頻繁に点検し、必要に応じて交換してください。

室内防塵用フィルタ

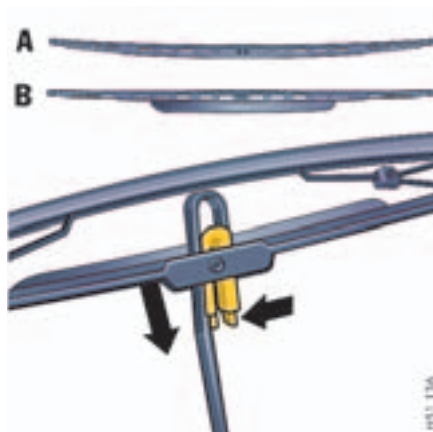
室内防塵用フィルタを通って室内に入ってくる空気は、ほこりや花粉などが取除かれます。

▷ 外気が汚れている場合は、内気循環に切替えてください。

フィルタが汚れていると、空気の清浄効果が下がります。

▷ フィルタの交換は、最寄りのポルシェ正規販売店にお申し付けください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

定期的なフィルタ交換はメンテナンスの一部です。

A - *助手席側（カーブしたブレード）*
B - *運転席側（スポイラ付）*

ワイパー・ブレード

ワイパーの性能が低下したときは、適切な時期にワイパー・ブレードを交換してください。

▷ 「車のお手入れ」（185ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

ワイパー・アームが突然倒れてフロント・ウィンドウが損傷しないように注意してください。

▷ ワイパー・ブレードを交換するときは、ワイパー・アームをしっかり持ってください。

ワイパー・ブレードが凍結した場合、損傷する恐れがあります。

▷ 凍結部を取除いてください。

誤った方法でワイパー・ブレードを交換すると、走行中に外れ、損傷の原因となる恐れがあります。

▷ ワイパー・ブレード交換後には、ワイパー・アームが確実に固定されているか確認してください。

知識：

ワイパー・ブレードの擦れやきしみの原因には以下が考えられます。

ー 自動洗車機を使用した場合、フロント・ウィンドウに洗剤やワックスなどの残留物が付着する場合があります。このような残留物は、特殊なリムーバを使用しなければ落とすことができません。

詳しい情報はポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

ー ワイパー・ブレードが損傷または摩耗する恐れがあります。

▷ できるだけ早急に損傷したワイパー・ブレードを交換してください。

ワイパー・ブレードの交換

1. イグニッション・キーを抜き、ワイパー・アームをフロント・ウィンドウから起こします。
2. ワイパー・ブレードのプラスチック・スプリング（**右側矢印**）を押します。
ワイパー・ブレードを引出し、ワイパー・アームから取外します。
3. 新品のワイパー・ブレードをはめ込み、確実に固定します。
新品のワイパー・ブレードをワイパー・アームの同じ位置にはめ込みます。
ー 運転席側（スポイラ付）
ー 助手席側（カーブしたブレード）
4. ワイパー・アームを注意して元の位置に戻します。

車のお手入れ

定期的に正しく車のお手入れを行うことは、お車の価値を長持ちさせるだけでなく、車両の保証と長期保証の適応を受ける際の有利な条件となります。

ポルシェ正規販売店には、お車にふさわしいカー・ケア製品が揃っており、単品でもセットでも販売しております。

▷ 使用に当たっては、必ずパッケージ等に印刷された注意事項を守ってください。

▷ 製品はお子様の手の届かない安全な場所に保管してください。

▷ 処分の必要がある場合は、必ず適切な方法で行ってください。

お車の状態がポルシェ正規販売店で点検されているか、そして10年間の長期保証が有効であるかを確かめるために、ポルシェ正規販売店では、お手入れの状態や整備状況を点検させていただき、「整備手帳」にその結果を記載します。

高圧洗車装置

⚠ 警 告

高圧洗車装置を使用すると、以下のコンポーネントを傷付けることがあります。

— コンバーチブル・トップ

— タイヤ

— ロゴ、エンブレム

— 塗装面

— ジェネレータ

— パーキング・アシスタント・センサー

▷ 使用するときは、メーカーから提供された取扱説明書を遵守してください。

▷ 平形ジェット・ノズルなどで洗浄する場合は、最低50cm距離を置いてください。

▷ 丸型ジェット・ノズルを使用しないでください。
高圧洗浄機と丸型ジェット・ノズルを組合せて使用すると、お車を損傷する恐れがあります。特にタイヤの損傷に注意してください。

▷ エンジン・ルームを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータに向けないでください。

洗車

車を美しく保つには、日頃のお手入れが大切です。こまめに洗車とワックスがけを行ってください。道路に凍結防止剤がまかれる冬季が終わったら、車両の下まわりをていねいに洗ってください。

塩、砂じん、ばい煙、昆虫の死がい、鳥のふん、樹木から出る樹液や花粉は、車体に付着している時間が長くなればなるほど、塗装の傷みがひどくなります。

車の手洗いは洗車機を使用するよりも環境を汚染する場合があります。

▷ グリース、オイル、ごみ等が適切に処理できる場所で、洗車・清掃を行ってください。

濃い色の塗装は、明るい色の塗装に比べて非常に小さな傷（引っかき傷）でも目立ちます。

濃い色の塗装は、顔料の組成のために傷が付きやすいので、特にこまめな手入れと注意が必要です。

▷ 日差しの強いところや、車体がまだ熱い間は洗車しないでください。

▷ 手で洗う場合、水を十分に使用し、柔らかいスポンジか洗車用ブラシ、ポルシェ・カー・シャンプーを使用してください。
ポルシェ・カー・シャンプーを推奨致します。

▷ 車体によく水をかけ、主な汚れを洗い流します。

▷ 洗剤を使った後は車を水で十分にすすぎ、革拭きします。

ウィンドウには、ボディを洗ったときと同じ革を使用しないでください。

ブレーキが濡れていると、効きが悪くなったり片効きになったりします。

▷ ブレーキ・ディスクを乾かした後、ペダルを何度か踏んで制動能力を必ず確かめてください。

緊急時に正常な制動が行えない場合があります。

自動洗車機

自動洗車機を使用すると、取付けているオプション部品が飛び出している場合は傷を付ける恐れがあります。

以下のパーツは特に破損の恐れがあります。

— コンバーチブル・トップ（コンバーチブル・トップの素材を傷めるので、ホット・ワックス処理をしないでください。）

— ワイパー（間欠作動やセンサによる不意な誤作動を防止するため、常にスイッチをOFFにしてください。）

— リア・スポイラ

— ホイール（リムが広がり、タイヤ高が低くなるにつれ、より破損が生じやすくなります。）

— メッキ・ホイール（傷が付きやすいので、ホイール洗浄用ブラシでこすらないでください。）

▷ 自動洗車機を使用する前に洗車場の担当者に確認してください。

▷ アンテナを取外してください。

▷ ドア、フロント・トランク・リッドやエンジン・フードの継目、ドアの下枠など洗車機で洗えない箇所は手で洗い、柔らかい革（セーム革など）で拭いてください。

コンバーチブル・トップのお手入れ

コンバーチブル・トップの寿命と外観は正しいお手入れとお取扱いによって長く保つことができます。
雪や氷を縁の鋭いもので取り除かないでください。

洗浄

⚠ 注 意

高圧洗車装置または自動洗車機のホット・ワックス処理を行うと損傷する恐れがあります。

▷ コンバーチブル・トップ部は高圧洗車装置で洗浄しないでください。

▷ コンバーチブル・トップ部はホット・ワックス処理をしないでください。

コンバーチブル・トップは洗車のたびに洗浄する必要はありません。
通常はきれいな水で流すだけで十分です。

▷ 毛の柔らかいブラシを使用して、繊維に沿ってブラッシングしコンバーチブル・トップのほこりを取除きます。

▷ 汚れが頑固な場合にのみ、ポルシェ・カー・シャンプー＆コンバーチブル・トップ・クリーナを使用して洗浄します。洗浄にはぬるま湯とスポンジまたは毛の柔らかいブラシを使用して、軽くこすります。その後きれいな水でポルシェ・カー・シャンプー＆コンバーチブル・トップ・クリーナを残さず洗い流します。

ポルシェ・カー・シャンプーを推奨致します。

▷ 洗浄後は、ポルシェ社指定のコンバーチブル・トップ専用ケア用品を使用して、年1回以上の頻度でお手入れを行ってください。コンバーチブル・トップ専用ケア用品が塗装部およびウィンドウに付着しないように注意してください。付着した場合はただちに取除いてください。

▷ コンバーチブル・トップ・カバー本体または縫い目や折り目から漏れが生じた場合、ポルシェ社指定の浸透剤を使用して処置することができます。

▷ 浸透剤容器の指示に従ってください。

▷ 鳥の排せつ物が付着した場合には直ちに取除いてください。排せつ物に含まれる酸がコンバーチブル・トップのゴムを膨張させ、水漏れしやすくなります。

▷ コンバーチブル・トップは必ず天候がよいときにのみ開いてください。湿気によるしみや擦り傷がついて、取れなくなる恐れがあります。

▷ コンバーチブル・トップ・カバーに汚れがついた場合は、柔らかいゴム・スポンジを使用して、慎重にこすり取ってください。

ドア・ロック

▷ 冬場にドア・ロックが凍結しないように、洗車中はロック・シリンダにカバーをしてください。

▷ 万一ロックが凍結した場合は、市販の除氷剤を使用することもできますが、温めたキーを差込むのも効果的です。ただし、無理な力をかけないでください。

塗装

▷ 乾いた布で車体のほこりを払うと、ほこりの粒子で表面の塗装が削れてしまい、つやがなくなったり、傷付いたりすることがあります。

車の塗装面は外的悪条件にさらされています。強い日差し、雨、霜、雪等の気候的悪条件が主なものです。その他にも塗装面は紫外線、急速な温度変化、大気中のばい煙、化学堆積物などの影響も絶え間なく受けています。美しい塗装面を長期間保つには、定期的に細やかなお手入れを行うことが不可欠です。

▷ ウィンドウおよびコンバーチブル・トップには、シリコン光沢剤を使用しないでください。

▷ つや消し仕上げの部品にワックスや光沢剤を使用すると、つや消し効果がなくなります。

ワックス

塗装面は風化によってつやが失われていくので、頻繁にワックスがけを行ってください。

ワックスがけを行うことによって、塗装の光沢と強度を保つことができます。また、塗装面に汚れが付着したり、ばい煙が浸透することを防ぎます。

洗車とお手入れの際に必ずワックスがけを行うようにすると、新車時の光沢を長く保つことができます。

▷ 洗車の後は、ワックスで磨いてください。

つやだし

通常のワックスがけでは満足なつやが出ない時に限り、ポルシェ社指定の光沢剤を使用してください。

ポルシェ・ペイント・ポリッシュを推奨致します。

汚点、染み

▷ タールの汚れ、グリース、昆虫の死がいは洗っただけでは落ちません。そしてこれらが塗装面に残ると、退色の原因になります。

▷ 処理を行った後は、直ちにその箇所を洗い流してください。

小さな塗装の傷

▷ 亀裂、引っかき傷、飛石による塗装面の小さな傷は、腐食が**始まる前に**、すみやかにポルシェ正規販売店で修理を行ってください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束致します。

既に腐食が見られる場合は、まず錆を完全に取除きます。
つぎに、その箇所に防錆プライマを塗布し、上塗り塗料で仕上げます。車両のペイント・データ・プレートをみれば、ペイント・コードやカラー番号がわかります。

エンジン・ルームの清掃と維持

エンジン・ルームおよびエンジンの表面は、工場にて防錆処理が施されています。エンジン・ルーム内の清掃にグリース溶剤を使用したり、エンジンを洗浄した場合は、防錆処理の効果が薄れ腐食を早める恐れがあります。全ての表面、ボディのつなぎめ、ジョイント、エンジン・ルーム内の構成部品に耐久保護剤を塗布してください。また、防錆処理の行われたパーツを交換した場合にも耐久保護剤を塗布してください。

⚠ 注 意

損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・ルームを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接ジェネレータ、シール類およびエンジン構成部品に向けないでください。また、洗浄する場合はジェネレータおよびエンジン構成部品にカバーをしてください。

冬など、特に気温が低い季節には、効果的な防錆対策を取ることが必要です。凍結防止の塩剤がまかれた路面上を頻繁に走行する場合は、エンジン・ルーム全体を完全に清掃し、塩による損傷が及ばないように完全なコーティング処理を行うようにお薦め致します。

ウィンドウ

▷ ポルシェ社のウィンドウ・クリーナは、ウィンドウの内側にも外側にも使用できます。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
セーム革を使用してウィンドウを清掃する場合、同じ革をボディ塗装部分と共用しないでください。ワックスや光沢剤が革に付着し、それによってウィンドウが汚れ、視界が悪くなることがあります。

▷ 昆虫の死がいは、昆虫除去剤で取除いてください。

知識：

ドア・ウィンドウには撥水性（疎水性）コーティングが施されており、ウィンドウの汚れを防止しています。
コーティングが自然摩滅してしまった場合は、新しく塗布することができます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検につきましては、ポルシェ正規販売店で実施される事を推奨致します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ワイパー･ブレード

視界を良好に保つには、ワイパー・ブレードが完全な状態であることが不可欠です。

▷ ワイパー･ブレードは年に1～2回（冬季の前後）、またはワイパーの性能が劣化した場合に交換してください。

▷ ワイパー・ブレードはウィンドウ・クリーナーで清掃してください。
ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨致します。
汚れがひどい場合（昆虫の死骸など）はスポンジまたは布で清掃してください。

アンダーコーティング

下まわりは化学的、機械的ダメージに対して耐えるように保護されていますが、毎日の走行により保護塗装も傷付きますので、ポルシェ正規販売店で定期的に点検、修理を受けてください。

⚠ 警 告

エキゾースト・システムが火災になる恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールドやエキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒート・シールドやその周辺に追加のアンダーコーティング剤や防錆剤を塗らないでください。これらの箇所は運転中は高温になるので、保護剤を過熱し発火させることがあります。

必ず、下まわりやエンジンを洗浄した後、また下まわりの部品を修理した後に、適切な防錆剤を塗布してください。

ヘッドランプ、ランプ類、室内および外装のプラスチック部品

▷ ヘッドランプ、ランプ類､プラスチック部分などの表面を清掃するには、清潔な真水および少量の中性洗剤を使用してください。表面が乾いた状態で清掃しないでください。
柔らかいスポンジまたは糸くずの出ない柔らかい布を使用し、優しく、あまり圧力をかけずに表面を拭いてください。
ウィンドウ内側の清掃には、プラスチック表面用のクリーナが適しています。
クリーナ容器に記載されている注意事項に従ってください。
ポルシェ純正のクリーナ類の使用を推奨致します。
清掃には化学クリーナまたは溶剤を使用しないでください。

▷ 清浄な水で表面を洗い流します。

ドア、ルーフ、リッド、ウィンドウ・シール

▷ シールの汚れ（傷、汚れ、凍結防止の塩など）は温かい石鹸水で定期的に洗浄してください。
化学洗浄剤や溶剤は絶対に使用しないでください。

▷ 凍結の恐れのある場合は、ドアやリッドのシールを適切なケア用品で保護してください。

インナー・ドア・シール、コンバーチブル・トップ・シールおよびハードトップ・シールに塗布されている減摩コーティングは傷が付きやすいので洗浄しないでください。

ステンレス・スチール製エグゾースト・テール・パイプ

ステンレス・スチール製エグゾースト・テール・パイプは、汚れ、排気熱、排気ガスなどで輝きが失われます。市販の金属ポリッシュで磨いてください。

軽合金製ホイール

▷ 「自動洗車機」（186ページ）を参照してください。

金属粒子（ブレーキ・ダストに含まれる真ちゅうや銅など）が軽合金に長い間付着しないように注意してください。接触性腐食を起こし、ピッチング（小さなくぼみ穴）が発生します。

▷ ホイールをスポンジかブラシで、できれば2週間毎に洗ってください。冬季に凍結防止剤が道路にまかれる地域や、大気中にばい煙の多い地域では毎週洗うようにしてください。
ポルシェ指定軽合金ホイール・クリーナー（pH値9.5）をお使いください。洗剤のpH値が適切でないものを使用すると、ホイールの保護塗装が腐食されます。

ポルシェ純正軽合金ホイール・クリーナを推奨致します。

保護塗装の酸化皮膜を破壊するような光沢剤、研磨器具、研磨剤などは使用しないでください。

▷ 3ヶ月に1度は、洗浄後、腐食性のないグリース（ワセリン）をホイールに塗布してください。柔らかい布を使って、グリースを表面によくすりこみます。

⚠ 警 告

ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナなどを付着したままにすると、ブレーキ・ディスクに膜ができて、ブレーキ性能を損なってしまい思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ブレーキ・ディスクにクリーナが付着していないか必ず確認してください。

▷ ブレーキ・ディスクにクリーナが付着していた場合は、高圧洗車装置を使用して完全に洗い流してください。

▷ 道路に十分に注意してからブレーキを作動させ、ブレーキ・ディスクを乾かしてください。

本革のお手入れ

本革の特性

本革の表面に見られる天然のしわや傷、虫が刺したような跡、模様の違い、色合いや銀面における微妙なバリエーションが本革の天然素材としての魅力を一層引き立てます。

特に知っていただきたいのは本革の特徴です。革は厳選した最高級品質の本革を使用しています。染色しない部分を残して、天然の風合いを感じていただけるように仕上げました。この素材は卓越した座り心地、しなやかさ、風合いを特徴としています。

本革のお手入れおよび取扱い

▷ 白色の湿らせた柔らかい毛織物または市販のマイクロ・ファイバー布を使用して、定期的にお手入れしてください。

▷ 汚れがひどいときは、ポルシェ社指定のレザー・クリーナーを使用してください。
容器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
ポルシェ・レザー・クリーナを推奨致します。

刺激性の強い洗剤や、硬い清掃用品を使用しないでください。

本革製メッシュ・トリムは、裏面まで湿らせないように注意してください。

▷ 洗浄が終わったら、ポルシェ社指定のレザー・ケア剤でお手入れしてください。本革製シートは傷みが激しいので特にお手入れをお薦め致します。
ポルシェ・レザー・ケア剤を推奨致します。

カーペットとマット

▷ 掃除機か、中程度の硬さのブラシを使用してください。

▷ 汚れやしみはポルシェ社指定のしみ抜き剤で除去します。

カーペットの汚れを防止するため、フロア・マットがポルシェ・カー・アクセサリとして販売されています。

⚠ 警　告

思わぬ事故になる恐れがあります。

▷ ペダル操作の妨げにならないようにフロア・マットは確実に固定してください。

アルカンターラ

アルカンターラ部の清掃に革用手入れ剤を使用しないでください。

日常のお手入れとしてはカバーを柔らかいブラシで拭くだけで十分です。
アルカンターラの表面を強くこすらないでください。損傷する恐れがあります。

軽度な汚れ

▷ 柔らかい布を水または薄めた中性洗剤で濡らして、汚れを取除きます。

頑固な汚れ

▷ 柔らかい布をぬるま湯または薄めたクリーニング用溶剤で濡らして、外側から汚れた部分を軽くたたきます。

シートベルトのお手入れ

シートベルトを洗浄する場合は、刺激性の少ない洗剤を使用してください、またベルトを乾燥させるときは、直射日光を避けてください。

▷ 適切な洗剤のみを使用してください。

▷ ベルトを染色および脱色しないでください。ベルトの布地が弱り、安全性が損なわれます。

車の保管

長期間保管をする場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。スタッフが適切な腐食防止対策、お手入れ、メインテナンス、保管などのアドバイスを致します。

▷ 「バッテリ」（211ページ）を参照してください。